

**情報通信審議会 情報通信技術分科会**  
**電波利用環境委員会 CISPR A 作業班(第 22 回)**

**議事要旨**

1 日時：令和6年11月25日(月)15:00~17:00

2 場所：Web会議開催(Cisco Webex)

3 出席者(敬称略)

【構成員】石上主任(東北学院大学)、田島主任代理(NTT-AT)、雨宮構成員(VCCI)、安藤構成員(JEMA)、伊藤構成員(NHK)、井山構成員(ドコモ)、曾根構成員(東北大学)、チャカロタイ構成員(NICT)、登坂構成員(JET)、中嶋構成員(JQA)、中村構成員(JBMIA)、鳩野構成員(JEITA)、原田構成員(VCCI)、針谷構成員(KEC)、藤井構成員(NICT)、三塚構成員(TELEC)

【関係者】島先関係者(VCCI)

【事務局】総務省：郷藤電磁障害係長(記)

**4 議事概要**

**(1) CISPR A 小委員会 東京会議等 審議結果について**

CISPR A 総会の審議結果について、石上主任より資料 22-1-1 に基づき説明が行われ、田島主任代理より A 小委員会東京会議を開催するにあたってご支援・ご協力いただいた関係者に対し謝辞が述べられ、補足説明が行われた。特に質疑はなかった。

次に、WG1 の審議結果について、石上主任より資料 22-1-2 に基づき説明が行われ、田島主任代理より補足説明が行われた。特に質疑はなかった。

次に、WG2 の審議結果について、田島主任代理より資料 22-1-3 に基づき説明が行われ、石上主任より補足説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

島先関係者：5.2 項の CISPR TR16-3 は、FAR の許容値をどう扱うかという話で、1 GHz 以下の水平偏波と垂直偏波の許容値が異なっている点について、H 小委員会として経緯を残すこととなり、TR16-3 に記載することとなったものである。

また、6.1 項及び 6.2 項について AHG8 で作業する 40GHz 以下の測定法に関するものであるが AHG7 のバリデーシオンの検討が進んでからとなった。

田島主任代理：9 月に議論することとなった理由は何か。その前に 6 月の会合があるが、2<sup>nd</sup> CD が 9 月目標となっているためか。

島先関係者：然り。測定法だけ作っても、バリデーシオン等の課題を解決しないといけないという意見が多かった。AHG8 は測定法なので、AHG7 のバリデーシオンが決まらないと測定法が決まらない。

田島主任代理：5.2 項の議論はどういったものか。

島先関係者：A 小委員会が許容値の過去の経緯を作成するかどうかという話になり、H 小委員会が作成すべきとの話になった。H 小委員会の状況を説明し始めて議論が発散した。

次に、AHG7 及び AHG8 の審議結果について、島先関係者より資料 22-1-4 及び資料 22-1-5 に基づき説明が行われた。特に質疑はなかった。

次に、A/I JTF の審議結果について、島先関係者より資料 22-1-6 に基づき説明が行われた。質疑応答は次のとおり。

田島主任代理：A/I JTF は 6 月のミラノで開催しないのか。

島先関係者：先日 I 小委員会の MT7 が開催され、4 月に MT7 と同時開催するという話があった。

次に、A/I JAHG6 の審議結果について、島先関係者より資料 22-1-7 に基づき説明が行われた。質疑応答は次のとおり。

田島主任代理：Q 文書について、今までの CMAD などが入っているので、VHF-LISN を入れないという選択肢はないのではないかと。

島先関係者：そのような議論があったが、VHF-LISN 導入を反対している国があり、それらの意見を聴取することとなった。

中村構成員：各国の国内委員会が判断できる材料は揃っているのか。

島先関係者：ランドロビンテストのデータを配付し、東京会議開催時に VHF-LISN の現物を見てもらったので、それで理解が進んでほしいと思う。

中村構成員：それらは Q 文書に添付されているのか。

島先関係者：Q 文書に添付されていないが、ランドロビンテストの結果を見るよう文書に残すなどしている。

中村構成員：この Q 文書の内容で決まってしまうとなると、非平衡型と平衡型両方が残れば良いが、平衡型が落ちることもあると思われ、懸念している。

島先関係者：I 小委員会の MT7 では、A 小委員会がそのように判断しても、I 小委員会は VHF-LISN を採用すればよいのではないかと話になっていた。

中村構成員：CISPR 16 に記載されてさえいればいいのだが、特定のもののみ記載するではなく、全て記載されていけばよいと思う。

島先関係者：ドイツからも、AMN 等を列挙されており、製品規格がどれを使うか選べるようにしたら良いという意見もあった。

次に、JWG9 の審議結果について、田島主任代理より資料 22-1-8 に基づき説明が行われた。特に質疑はなかった。

**(2) 電波利用環境委員会 報告書(案)について**

石上主任より資料 22-2-1 及び 22-2-2 に基づき説明が行われ、特に質疑なく承認された。

**(3) その他**

特になし。

以上